



分別作業1



分別作業2

三島市萩町内会では、令和3年1月11日(月)新年恒例の「どんど焼き」行事が町内神明神社境内にて実施され、地域住民約120人が参加して1年間の無病息災を願いました。

前々日の1月9日(土)、町内から回収されたお正月飾り、門松、しめ縄などを燃やすための分別作業が、子供会役員、町内会役員、そして中学生ボランティア活動で参加した9名の生徒さんとの共同作業で進められています(写真上左右)。



正月飾り



櫓組み立て

分別作業の済んだ正月飾りが神明神社境内に運ばれ、1月11日(月)当日、朝8時から準備開始です。二ノ宮造園代表の二ノ宮正二さん(83)が持参された竹や木の棒で「どんど焼き櫓」を組みます(写真上左右)。



飾りつけ作業



飾り付け完成

二ノ宮さんは、ご自身のお子さんが小学校に入学し、当地域の子供会に入会された時から、現在に至るまでの51年間、当町内会「どんど焼き」行事の事前準備から→櫓の設営→飾りつけ→点火の準備→火の見回りと追い焚き→参加者との対話→残り火と灰の処置など、一連の作業をボランティア活動として長期間に渡って対応していただいています(写真上左右)。





[望月さんと二ノ宮さん](#)



[子供会準備](#)

今年も昨年同様、娘婿の望月鉄也さん(写真上左の左側が望月さん、右側が二ノ宮さん)と共にボランティア活動に参加いただきました。

子供会役員さんによる参加者へのふるまい品、ペットボトル入りのお茶、紅茶、ジュース類、コーヒーなども準備完了です(写真上右)。



[町内会準備](#)



[消防団準備](#)

飛び火対策として、町内会役員さんによる神社境内への水まき、そして各バケツへの貯水も完了しました(写真上左)。

顔なじみの地元消防第4分団の方々も、防火、安全確保のため、駆けつけて頂いています(写真上右)。



[開会式1](#)



[開会式2](#)

ソーシャルディスタンスを取っての開会式です。三島市萩町内会の溝口啓二会長より、「どんど焼きのねらいとして無病息災と地域の絆造り、そして新型コロナウイルスの一日も早い収束を願っています」との挨拶を頂きました(写真上左右)。





[点火準備](#)

点火の予定時刻の午前10時が迫って参りました。

二ノ宮さんから種火を頂き、地域の子供たち、12歳の年女さん4名による、東西南北、4方向から同時に点火されました(写真上左右)。



[点火1](#)



[点火2](#)



[点火3](#)

参加者そして地元の消防第4分団員に見守られる中、どんど焼きの炎が勢いよく燃え上がって来ました。

この火や煙にあたると…1年健康に過ごせると言われています(写真上左右)。



[団子焼き1](#)



[団子焼き2](#)

点火後、約1時間が経過し火の勢いも収まり炭火になって来ました。二ノ宮さんの合図で、大人も子供も竹の先端につるした、色々な餅が一齐に残り火の中に投入されました(写真上左右)。

ここで焼かれた餅を食べると、今年1年間「無病息災・家内安全」と言われています。



[お帰りの挨拶](#)

皆さんご持参の餅もほぼ焼き上がりました。子供会役員さんより参加者全員に配布の飲み物と一緒に持ち帰ります(写真上左)。



[後片付け](#)

どんど焼き行事が全て無事完了しました。二ノ宮さんの軽トラックに、燃え残りや灰を積み込んで神社境内の整備作業が行われています(写真上右)。

二ノ宮さん、望月さん、中学生ボランティアさん、消防団、子供会、町内会、皆さま方の連携プレーで無事に終了しました。町内の子供から年配の方まで、幅広い年齢層の方々が集まり、皆で楽しみ、地域の絆をより一層と深められた「どんど焼き」行事でした。

取材：中伊豆地区担当 生きがい特派員 安藤 智章